

平成30年度 矢田西中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

3 「大阪市中中学生3年生統一テスト」の調査の目的

- (1) テスト結果を個々の生徒の評定（内申点）に活用し、平成30年度大阪府公立高等学校入学者選抜における調査書に記載する評定の公平性、信頼性を確保する。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。

4 「大阪市英語力調査（英検IBA）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟課程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の改善、工夫に役立てる。

平成30年度 矢田西中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)					平均無解答率(%)				
			国語A	国語B	数学A	数学B	理 科	国語A	国語B	数学A	数学B	理 科
3 年	学校	37	74	58	64	40	67	2.4	2.1	1.1	10.9	3.5
	大阪市	—	74	58	63	44	63	3.6	4.1	3.7	14.9	5.9
4月17日	全国	—	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1	3.1	3.0	3.3	12.6	5.0

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	37	48.7	42.7	52.2	60.5	53.3	18.2	4.0	8.5	3.2	3.1
	大阪市	—	51.6	48.1	56.7	56.5	56.2	16.9	4.6	10.5	7.2	3.8
9月4日	大阪府	—	53.0	49.5	58.9	58.0	58.5	16.0	4.5	10.3	7.3	3.6
2 年	学校	41	54.4	45.3	59.5	58.1	49.1	7.8	8.5	10.5	2.6	5.5
	大阪市	—	55.9	52.3	60.7	55.7	49.8	6.9	5.9	9.1	5.9	5.4
1月10日	大阪府	—	57.0	53.4	61.8	56.6	51.3	7.1	6.0	9.2	6.3	5.3
1 年	学校	53	48.0	—	53.8	—	49.2	11.5	—	10.0	—	15.0
	大阪市	—	54.8	—	60.2	—	61.1	6.9	—	6.5	—	6.6
1月10日	大阪府	—	56.2	—	61.3	—	62.0	6.7	—	6.7	—	7.2

※ 2年生の社会はB問題を選択 2年生の理科はA問題を選択

※ 1年生については、国語・数学・英語のみ実施

3 大阪府中学校3年生統一テスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)				
			国語	社会	数学	理科	英語
3 年	学校	37	56.5	54.1	56.3	56.4	53.9
10月4日	大阪市	—	60.2	58.8	59.2	57.1	60.7

4 大阪府英語力調査（英検IBA）

学年 実施月日		生徒数 (人)	語い 熟語 文法 (%)	読解 (%)	リスニング (%)	英検3級 LV以上 (%)	英検4級 LV以上 (%)	英検5級 LV以上 (%)
3 年	学校	37	54.5	49.9	48.9	43.2	—	—
10月23日	大阪市	—	62.6	52.2	53.2	52.8	—	—
2 年	学校	41	66.2	55.8	61.3	—	53.7	—
10月23日	大阪市	—	71.2	58.5	65.0	—	69.2	—
1 年	学校	52	58.0	52.9	64.7	—	—	75.0
10月23日	大阪市	—	56.5	53.2	63.3	—	—	79.4

平成30年度 矢田西中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

チャレンジテスト1・2年の結果について

【成果と課題】

2年生は、理科以外の正答率は府平均に届かなかった。また無回答率も理科以外は府平均よりも高かった。国語・社会・数学・英語では課題のある領域や設問もあるが、府平均を上回る設問も多くみられる。学習内容の定着にややムラがある。理科は化学・生物分野で府平均を超えたが、物理分野がやや弱い。質問紙調査から実験・観察を積極的に取り入れ、仮説を立てて思考することができていることがわかる。

前向きに授業に取り組み、放課後やテスト前には自主学習を行うなど、学習意欲は高い。標準化得点で1年生時をわずかに越えることはできなかったが、欠席者が多かったにもかかわらず、府平均の2割以上上回った生徒の割合が微増した。単純な対府比では1年時と比較すると、国語は0.92から0.95に向上、数学は0.92から0.96に向上、英語は昨年と同じ0.96であった。

1年生は、国・数・英ともに府平均よりも大きく下回った。無回答率も高い。標準化得点でも86.6にとどまった。国語は説明や表現する設問、数学では文章の数量関係を式にする設問、英語では複数の能力を使って解く設問に大きな課題がみられる。読みながら整理をして説明するというようなマルチタスクが苦手な生徒が多いと思われる。

しかし、授業には前向きに取り組んでおり、生徒質問紙でも「授業の内容はよくわかる」と答える生徒は府平均を上回っている。確実に学習内容が定着できるように、家庭学習も含め工夫を図らなければならない。

【今後に向けて】

落ち着いた環境で高い学習意欲を維持しているが、学習内容が十分に定着しきれておらず、テストになると成果が出せない生徒が多い。また複雑な処理を要する問題に課題が大きく、授業の中で解くプロセスを重視し、自信をつけさせることも必要である。引き続き、習熟度別少人数指導・TTなど指導形態の工夫や、課外の自主学習などに取り組ませ、個に応じたサポートをしていくとともに、家庭学習の定着を図る取り組みを強化したい。